

牧師所感： マリアン・エドガー・バッディ主教  
—アメリカ聖公会ワシントン主座—

去る1月20日（アメリカ時間）、ドナルド・トランプ氏がアメリカ第47代大統領として就任した。その翌日（21日）トランプ大統領は「宗派を超えた大統領就任記念行事と位置づけられているワシントン大聖堂」の礼拝に参席された。（朝日新聞）

「この礼拝は、聖公会信徒だったフランクリン・ルーズベルト大統領が就任した1933年以来、続けて行われてきた伝統を持つ」と紹介している。（キリスト新聞）

以上で見るよう意義ある礼拝にトランプ大統領は参席されたのである。

さて、当然のように、一国の元首の前で説教するのだから、どんなに周到に、精魂込めて、準備したであろうか、と想像する。筆者のような凡人牧師は、想像も付かない出来事のように思われる。

ところではあるが、マリアン・エドガー・バッディ主教は、大統領の前であっても、真理を堂々と臆することなく、訴えて語り、結果的に大統領の機嫌を損ねた。

ところでその説教は。トランプ大統領が、選挙戦で公約として訴えていた「不法移民」に対しての内容であった。説教は約15分であったと報道された。

報道によると、「トランプ大統領は、記者団に『良い礼拝ではなかった』と不満を述べ、22日にはSNSで『あのいわゆる主教とされる人物は、強硬なトランプ嫌いの極左だ』などと激しい言葉で非難した」ことを知った。

さて、主教は「トランプ大統領に『移民の圧倒的多数は犯罪者ではない。良い隣人だ』と指摘。（略）『私たちの地域社会にも、親が連れ去られるのではないかと恐れている子どもたちがいる。慈悲心を持って下さい』と諭した」と。

ところでこの報道を読み、旧約聖書に登場するアハブ王の悪政を非難し、不興を買ったユダヤの預言者エレミヤの使命を思い起した。

ところで世界の指導者、アメリカの大統領に大いなる期待を寄せている。上述のバッディ主教の説教はトランプ大統領に、大いなる感化を及ぼすであろうと確信する。

おわりに、全能の神よ、アメリカのトランプ大統領に豊かな慈悲の心を与え給え！